

令和 8 年度 鹿児島県 英語教育改善プラン

英語好きを育てる授業の充実と小中連携を図った「CAN-DOリスト」の活用促進

目標

- 「英語の勉強が好き」と肯定的に回答する児童（R7：70.8% ⇒ R8：75.0%）
- 「英語の授業の内容はよく分かる」と肯定的に回答する児童（R7：79.8% ⇒ R8：85.0%）

☒ 言語活動
 ☒ 指導と評価の一体化
 ☒ 教師の英語力・指導力
 ☒ 校種間連携
 ☐ ALTの参画
 ☒ ICTの活用
 ☐ AIの活用
 ☐ その他

(パフォーマンステスト含む)

(専科教員含む)

(AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ① 「英語の勉強が好き」と肯定的に回答した児童が全国より多かった。R7全学調
(本県70.8% 全国69.3%)
- ② 「英語の授業の内容はよく分かる」と肯定的に回答した児童が全国より多かった。R7全学調
(本県79.8% 全国78.3%)

未だ改善が必要な点

- ① 「英語の勉強は大切だと思う」と肯定的に回答した児童が全国と同等だった。R7全学調
(本県92.4% 全国92.1%)
- ② 「指導と評価の一体化」については、教師や学校によって取組に差が見られる。

2. 要因分析

- ① 言語活動の充実を意識した授業が広がりつつあることが、肯定的な回答につながったと考えられる。
- ② 「CAN-DOリスト」を児童と共有する学校が増加していることが肯定的な回答につながったと考えられる。

- ① 授業での学びが実生活にどのように生きるのかなどの理解や体験が不十分であることが考えられる。
- ② ALTやICT（AI）等の活用を伴ったパフォーマンス評価や客観的指標を生かした指導改善が不十分であることが考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ① 「英語指導力向上ブラッシュアップセミナー」
自分の考えや気持ちを表現する言語活動を通して資質・能力の育成を図るための授業改善について、県内全小中義務教育学校の英語担当者を対象として研修を更に深め、英語好きの児童を増やす。
- ② 「小中連携を図ったCAN-DOリスト」の活用促進
県内全中学校区毎に設定している「小中連携を図ったCAN-DOリスト」の効果的な活用法などを紹介するなどし、好事例を踏まえた研修を上記セミナー等の充実を図る。
- ① 「レッツ・エンジョイ・イングリッシュ・デイ」
ALT等と実際の生活場面に即したコミュニケーション等を体験させることで、英語運用能力や英語学習への意欲、世界や社会、他者への興味関心を高めるとともに、県内の英語教員が企画・運営を担うことで、授業の学びを実生活につなぐ単元構成等の授業改善に生かす。
- ② 英検 ESG（Elementary School Goal）
全国的な指標で児童の英語学習の状況を把握することにより、教員が平素の指導と評価の取組を振り返り、更に指導改善のヒントを得る機会を確保する。

令和 8 年度 鹿児島県 英語教育改善プラン

「生徒の英語力」の向上及び「国際意識」の醸成

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合（R7：51.9% ⇒ R8：56.0%）

○レッツ・エンジョイ・イングリッシュ・デイ参加希望者数（R7：146人 ⇒ R8：150人）

目標

☒ 言語活動
 ☐ 指導と評価の一体化
 ☒ 教師の英語力・指導力
 ☒ 校種間連携
 ☒ ALTの参画
 ☒ ICTの活用
 ☐ AIの活用
 ☒ その他
（パフォーマンステスト含む）
（AIを除く）

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ① CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合は毎年増加している。

R7実施状況調査

（R5:47.5% ⇒ R6:50.8% ⇒ R7:51.9%）

- ② 授業において、「発話や発音などの録音・録画」を実施した学校の割合が全国平均より高い。

R7実施状況調査

（本県91.0% 全国86.3%）

未だ改善が必要な点

- ① CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合は全国平均より低い。

R7実施状況調査

（本県51.9% 全国54.6%）

- ② 英語の授業において「オンライン会話（遠隔の生徒や教師、ALT等と英語で話す交流等）」を実施していない学校が多い。

R7実施状況調査

（全く行っていない学校 127/211 校）

2. 要因分析

- ① 県内全中学校区において作成した「小中連携を図ったCAN-DOリスト」を活用した授業改善が推進されていると考えられる。

- ② 各種研修会等において、ICT機器の活用を通じた言語活動の充実について取り扱ったことが、実施校の増加につながったと考えられる。

- ① 改善傾向にはあるものの、客観的指標を生かした授業改善や主体的に学習に取り組む態度の醸成を更に図る必要があると考えられる。

- ② 市町村によってALT等の配置状況や、オンライン交流を行うための環境整備の実態には差がある。
対面やオンラインによる、生徒が実際に交流する機会を設定する際には、学校の努力だけでは不十分になる部分があると考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ① 「英語指導力向上ブラッシュアップセミナー」
小中連携を図ったCAN-DOリストを踏まえた言語活動を通して資質・能力の育成を図るための授業改善について、県内全小中義務教育学校の英語担当者を対象として研修を更に深める。

- ② ICT機器活用による「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実の更なる促進
上記セミナー等において、理論的な理解を踏まえた上での具体的な活用方法やその効果等について研修を深め、AI時代における英語の学びの在り方の研修を深める。

- ① 英検 I B A
全国的な指標で生徒の英語学習の状況を把握することにより、生徒に日頃の学習成果を実感させるとともに、教員が平素の指導と評価の取組を振り返り、更なる指導改善のヒントを得る機会とし、本県中学生の英語力向上を更に図る。

- ② 「レッツ・エンジョイ・イングリッシュ・デイ」
「教室から世界へ！ かごしまグローバルクラスルーム事業」
希望する学校や生徒個人に対し、授業での学びを発揮できるような、ネイティブとの交流の場を提供する。
対面で行うものや、オンラインで行うものを用意することで、県内全域の学校や生徒が、自分の状況に合わせて参加できるよう工夫し、事業をととして、英語力の向上や英語学習に対する意欲向上を図る。

令和 8 年度 鹿児島県 英語教育改善プラン

目標

- 生徒の英語による発信力を高め、英語力向上を目指す。
- CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合
(R7 : A2以上47.9%、B1以上18.8% ⇒ R8 : A2以上60.0%、B1以上30.0%)
 - 授業における英語担当教師の英語使用状況の割合 (R7 : 20.2% ⇒ R8 : 40%)

☐ 言語活動 ☐ 指導と評価の一体化 ☒ 教師の英語力・指導力 ☐ 校種間連携 ☐ ALTの参画 ☐ ICTの活用 ☐ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ① 生徒の英語力の状況が改善 (目標50%)
(R6:47.7%⇒R7:47.9%)
- ② 英語担当教師の英語力の状況が改善 (目標 80%)
(R6:75.4%⇒R7:75.6%)

未だ改善が必要な点

- ① 英語担当教師の英語使用状況は下降しており、全国との差が開いている。
(目標40%)
(R6:28.8%⇒R7:20.2%)
- ② 生徒の英語力向上に向けて授業における生徒の英語による言語活動の割合を高めていく。
(参考 R5:38.4⇒R6:39.4%)

2. 要因分析

- ① 県のCAN-DORリストの作成と継続的な周知により、生徒の英語力を正確に把握できるようになったことから、求められる英語力を備えていると判断される生徒の数が増えていると考えられる。
- ① 英語教育実施状況調査の結果を踏まえ、資格取得の重要性や、教師の英語力向上が生徒の英語力につながることを周知したことが、成果につながったと考えられる。
- ① 言語活動を行う際に、生徒に教師からの英語による言語活動の例が示されていないことや英語使用について教師自身の英語による発話の見取りが不十分であることも要因であると考えられる。
- ② 知識・技能の習得を目的としたインプット中心の展開となる傾向の授業が見られ、生徒が英語を用いて表現したりやり取りしたりする言語活動へ十分につながっていないことが要因として考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ① 生徒の英語力向上の推進
県教委主催の各種研修会等において引き続き授業改善を促し、CAN-DORリストを活用した授業やパフォーマンステストの実施等を通じて生徒の英語力を教師及び生徒自身が可視化できるようにし、その向上を図る。合わせて、ICT (生成AIを含む) やALTの効果的な活用を推進する。さらに、「English Café」や「グローバルクラスルーム」等の事業を通じて、実体験に基づくコミュニケーション活動の機会を提供し、英語運用力の育成を支援する。
- ② 英語担当教師の英語力向上の推進
英語担当教師の英語力向上に向けて、県主催の各種研修及び総合教育センター等での研修受講を促すとともに、教師の英語力向上について引き続き指導を行い、自主的な資格取得への意欲を高めるよう働きかける。
- ① 英語使用の促進に向けた実践的支援の推進
ALTとの合同研修を通じて、英語による指示や、やり取りを含む場面を想定した、実践的で効果的な研修を行う。また、英語の使用割合について、各学校に状況の把握を目的とした聞き取り等を行い、英語使用の割合を高める取組を検討し、指導、助言を行う。英語担当教師を対象とした研修会に加え、管理職等の研修会においても、授業における英語使用の重要性について周知し、学校全体での取組を推進する。
- ② ICT (生成AI含む)、ALT活用の推進
タブレット端末を活用した言語活動の録画・振り返りや、生成AIを活用した英語による言語活動の充実を図る。その際、安全かつ適切な利用を徹底するとともに、教師が学習状況を適切に見取りながら活用を進める。また、ALTとのチーム・ティーチングを通して、生徒の英語による言語活動のさらなる充実を図る。

鹿児島県教育委員会

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	50	46.8	50	47.7	50	47.9	60		60		
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	20	15.9	25	16.7	20	18.8	30		30		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	50	38.4	55	39.4	60		60		60		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合(%)	85	80.6	90	79.1	100		100		100		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100	
		公表(%)	95	100	100		100		100		100	
		達成状況の把握(%)	70	68.2	70		75		80		80	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	65	68.2	70	75.4	77	75.6	80		85		
	⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合(%)	60	28.9	60	28.8	60	20.2	40		50		

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	50	47.5	50	50.8	53	51.9	56		60		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	80	74.8	80		80		80		80		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合(%)	90	83.9	90		90		90		90		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100	
		公表(%)	70	68.9	75		80		85		90	
		達成状況の把握(%)	90	82.1	90		90		90		90	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	50	38.5	50	41.9	50	55.4	50		50		
⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合(%)	70	65.4	70		70		75		80			

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100		100		100		100		
		公表(%)	65	62.4	70		80		85		90	
		達成状況の把握(%)	90	92	95		95		95		95	